

地域防災拠点等でのドラム缶等による仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例3】

1 目的

震災等により地域防災拠点等において非常用発電機及び暖房用燃料として、灯油、軽油をドラム缶で貯蔵し、金属製携行缶、灯油用ポリエチレン缶（以下「携行缶等」という。）に小分けするために必要な事項を予め計画します

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

佐世保市〇〇町〇〇〇番地〇号 □□小学校運動場（△△地域防災拠点）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約〇〇〇平方メートル

4 計画地のレイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第4類第2石油類（灯油・軽油） 2, 000リットル

6 指定数量の倍数

2倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 200リットルの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。
- (2) 保有空地进行を3メートル確保する。
- (3) 貯蔵場所と携行缶等に小分けする場所に3メートルの離隔をとる。
- (4) 高温になることを避けるため、必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設ける。
- (5) 第5種消火設備 10型ABC粉末消火器 2本を設置する。
- (6) 標識、掲示板を設置し注意喚起を行う。
「危険物仮貯蔵所・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) ドラム本体、手動ポンプ等のアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。
- (3) 〇〇〇〇

9 管理状況

- (1) 保有空地的の周囲にバリケード等を設け、空地进行を確保する。
- (2) 敷地的の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。
- (4) 〇〇〇〇

10 その他必要な事項

携行缶等への小分けは、この場所以外では行わない。

〇〇〇〇・・・。

実施計画書提出者住所・氏名・電話番号